

❀花まつり4月8日 お釈迦様の誕生日 「天上天下唯我独尊」❀

花祭りとは、仏教を開いたお釈迦様の誕生を祝う行事で、一般的には4月8日に行われています。お釈迦様は紀元前5世紀ごろの4月8日に、現在のネパールのルンビニの花園で誕生したといわれており、寺院ではたくさんの花で飾った花御堂（はなみどう）を作って祝うことから、花祭りと呼ばれるようになりました。ほかにも、灌仏会（かんぶつえ）、仏生会（ぶっしょうえ）、降誕会（ごうたんえ）などの呼び名があります。

花御堂

この日のために作られる小さな堂で、花で飾られ大変華やかです。お釈迦様が生まれた地とされるルンビニの花園に見立てています。

誕生仏のポーズと「天上天下唯我独尊」

花御堂には、天と地を指す誕生仏が安置されています。伝承によると、お釈迦様は生まれてすぐに七歩歩き、右手で天を、左手で地を指して、「天上天下唯我独尊」（生きとし生けるものは全て尊い命を持つ尊い存在であるということ）と言ったとされています。誕生仏は、このときのお釈迦様の姿を表しています。

誕生仏に甘茶をかけて祝う

花御堂の誕生仏に甘茶をかけてお祝いします。これは、お釈迦様が生まれた時に九頭の龍が現れ、頭から香湯（甘露の雨）を注いだという伝承に由来します。奈良時代には行われていたようですが、当時は香水と呼ばれる水をかけていました。江戸時代に甘茶をかける習慣が広まったといわれています。

甘茶の風習

寺院では甘茶を配布するケースが多く、これを飲むと無病息災で過ごせる、目につけると目が良くなるなどといわれてきました。また、甘茶で墨をすり、「千早振る卯月八日は吉日よ、神下げ虫を成敗ぞする」と書いて門口や柱の逆さまに貼り、害虫よけのおまじないにする風習もあります。

「南無釈迦牟尼仏」なむしゃかむにぶつ

